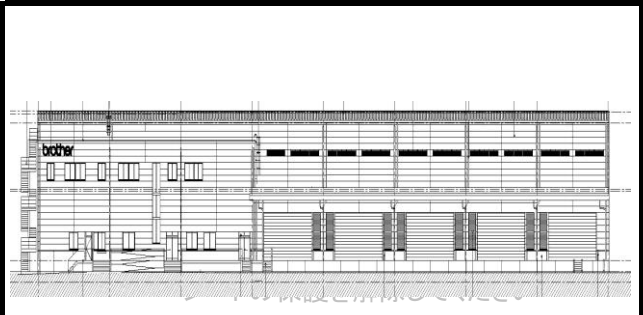


CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮促進条例適用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)港第1倉庫新築工事	階数	地上2F
建設地	愛知県名古屋市港区港明1丁目1015-3の一部	構造	S造
用途地域	市街化区域、準防火地域	平均居住人員	45人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,928時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年11月18日
敷地面積	12,505 m ²	作成者	
建築面積	6,337 m ²	確認日	2020年11月19日
延床面積	11,796 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.6

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の景観に配慮した植栽計画を行った。 大型車両が出入りするため、敷地内の交通導線の整理し一方通行とした。 	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・評価対象外	<ul style="list-style-type: none"> 設備機器の設置や更新が容易に行えるように、事務所の屋上部分にバックアップスペースを確保した。 将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高・空間の形状・自由さのゆとりのある計画を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の周囲に適切な植生を行い、良好な緑化空間を計画した。 隣接する公園から見える植栽には、サツキを植樹し四季を感じられる計画をした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> LED照明を採用し、倉庫内は熱線センサを設置し設備システムの高効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 節水型の器具を採用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃焼機器を使用しておらず、外部空間に対して大気汚染物質を全く発生させない。 敷地周辺に植栽を計画することで、周辺環境へ配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)港第1倉庫新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.170477235	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.017047724	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.085238618	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.1	
2. 自然共生	評価点 = 2.3	
3. 循環型社会	評価点 = 3.3	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。